

## 研究補助者ヒアリング交流会報告書

日時：平成25年1月30日(水) 13:30～15:00 場所：男女共同参画推進室 参加者：7名



平成24年度後期の研究補助者の方は13名、14名の研究者の育児・介護の時間を設けるために日々尽力いただいております。その研究補助者の皆様に研究補助者に対する課題・意見等を話し合っていたくべく、ヒアリング交流会を設けました。

当日は7名の研究補助者の方が参加され、医学部や農学部の研究補助者の方もお出でくださり、貴重な時間を過ごしました。研究補助者として就職した理由、先生との仕事・研究について、研究補助者に就いてのやりがいなど、意見交換がされました。

大学教員の研究補助と堅苦しい仕事内容のように感じられる仕事も、先生方のフォローや暖かいお言葉もあって、長く続けていられる方や、香川大学卒で先生とも面識があり、仕事がやりやすかったと言われる方も。仕事面では「先生のお役にたっているのか不安」という一面もありつつも「先生しかできない仕事に専念してもらえるように雑務をこなしています」と社会人経験者ならではの応用力に感心しました。

大学院生の方は、研究者として働く先生方の姿に自分の未来を重ね合わせ、今後の就職や研究に大いに役立ったと感想を述べられていました。



研究者の多忙な仕事と育児や介護等に追われる先生方の姿に、研究補助者の存在理由を知った方も。結婚等で現場を離れた方は復帰を希望されたり、更なる勉強をしようとする方もいらっしゃいました。

雇用について継続の連絡が遅かったり、勤務時間が短くなるなど不安があるとお話も。休暇を取る時も「先生に悪いのでは…」と心苦しさをを感じる時もあるそうです。研究補助者の皆様が安心して働ける労働の場を心掛けたいと思います。

キャンパスも離れて仕事をしているので、今回こういう場を設けたことで違うキャンパスの同じ立場の方々とお話ができ、とても有意義なヒアリングになったと思います。皆様共通して、先生方の「ありがとう」の一言で研究補助者として働く自分が報われたと感じられているようです。先生方の育児・介護等の時間提供だけでなく、研究補助者の皆様にとっても社会人として働く喜びを与えている、両者にとって実のある制度に思えます。今後も研究者の為に、また育児・介護等で多忙な研究者の礎として研究補助者の配置が継続してほしいと思いました。

当日のアンケートより-(当日不参加の方には後日アンケート集計します)

- ・異なる学部で補助者をされている方々のお話を聴くことができよかったです。自分自身もとても成長できるチャンスになったので、不安定な制度だと思いますが、今後も継続してもらえたらと思います。
- ・同じ立場の人との交流ができたことで、仲間意識が持て、またがんばろうと思えました。男女共同参画のねらい等もわかり、自信を持って仕事にうちこもうと思います。
- ・女性は家庭での子育てや介護を背負いながら生きていくことを余儀なくされているのが現状だが、その中で研究者社会生活を続けていくためにはこのような制度がどうしても必要になってくると思う。
- ・短い間でしたが、少しでも先生のお役にたてていれば幸いです。自分の事も見直すことができ、色々学ぶこともできた良い経験となりました。